

当日プログラム

9:40-10:00	受付 （場所：霞城セントラル3階 山形市保健センター大会議室前） ※10:00までに受付へお越しください。				
10:00-10:20	オリエンテーション（場所：霞城セントラル3階 山形市保健センター大会議室）				
10:20-10:30	移動（スタッフが各会場へご案内します）				
	【第1分科会】		【第2分科会】	【第3分科会】	【第4分科会】
10:30-15:30	地域人材を教室に呼ぼう！ ～国際理解教育からキャリア教育まで繋がる繋げる地域人材活用術～ ※第1分科会は、午前午後通しの分科会となります。	10:30-12:30	青年海外協力隊の活動と私の人生	世界よ、きてけろ～国際交流員としゃべてみねが？～	難民を知るワークショップⅡ～ロヒンギャ難民編～
昼食休憩 12:30-13:30			【第5分科会】	【第6分科会】	【第7分科会】
		13:30-15:30	国際結婚33年、「移住」について考える～私の人生プラン～	山形発！私たち高校生が考えること、できること～これからの世界を語ろう！～	世界がもし100人の村だったら～山形から知る世界～
15:30-16:00	ふりかえり・アンケート記入（各分科会ごとに行います）				

分科会 テーマ・内容・講師ほか（内容については若干変更になる場合があります。ご了承ください。）

第1分科会 10:30-16:00	地域人材を教室に呼ぼう！ 国際理解教育からキャリア教育まで繋がる繋げる地域人材活用術	渡邊太（山形市立西小学校／FKG米沢）、舟山康貴（飯豊少年自然の家）、小笠原直子（認定NPO法人IVY）、高橋泰行（JICA東北）、中村絵乃／伊藤容子（開発教育協会）
	「子どもたちに世界のことを知ってもらいたい。でも、『教える』だけでは面白くない…。世界と関わりのある人を学校に呼びたい・・・」 世界を見る窓口に、『地域人材』を活用すると、授業の幅が広がります！ でも「どうやって繋がればいいのかわからない...」「どんなふうに依頼すればいいのかわからない...」 そんな疑問にズバリお答えします！ また、学校に向かう側の「こんな思いを伝えたい」、受け入れる側の「こんな話をしてほしい」を共有し、地域人材を活用した授業の可能性について話し合います。 <内容（予定）> 1. 地域人材を活用した活動を体験してみよう！ (1) 青年海外協力隊経験者の話を聞こう・・・海外での生活や国際協力活動の話から授業に活かせる素材が見つかります。 (2) 地域人材と話そう・・・CIR（国際交流員）や海外における国際協力経験者と、テーマをもとに話し合います。（テーマ：「豊かさ」とは？、「私が13歳の頃」はどんなことをしていた？） 2. 地域人材活用の「い・ろ・は」教えます！ (1) 実践事例紹介・・・地域人材を学校に呼び単元や授業で実践した事例の紹介 (2) 地域人材を学校に呼ぶには・・・外部講師（地域人材）依頼と調整のポイント 3. 地域人材と交流しよう！	

第2分科会 10:30-12:30	青年海外協力隊の活動と私の人生	笹館宏美・横正智（山形県青年海外協力協会）
	開発途上国に住み、自分の技術を活かし現地の人々と共に活動する青年海外協力隊。その経験を通して、価値観の変化や進路選択など、その後の人生がどのように進んでいったのでしょうか。前半は協力隊経験者のパネルトーク、後半は医療や教育など、分野ごとに興味があるグループに分かれ、各協力隊経験者と話をします。 ◆パネリスト（予定）：沼澤彩子さん（インドネシア派遣／職種：助産師）、中村栄太さん（ネパール派遣／職種：野菜栽培） 司会：横正智（バヌアツ共和国派遣／職種：小学校教諭）	
第3分科会 10:30-12:30	世界よ、きてけろ ～国際交流員としゃべてみねが？～	山形県国際交流員：キム キョンミン（韓国）、エリカ テルフォード（イギリス）、ミチコ ヨシノ（アメリカ）、王笛雪（中国） 三上英司（山形大学地域教育文化学部教授） 鈴木正和（山形県国際交流室）
	皆さんは国際交流員をご存知ですか？国際交流員はどのような仕事をしているのでしょうか？ワークショップの前半は、県内で活躍している国際交流員の仕事を紹介します。後半は、『2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて海外からたくさんのお客様を受け入れるため、日本（山形）は何をするべきか』を国際交流員と一緒に考えます。まずは国際交流員と楽しく「しゃべてみねが？」みましょう！お気軽にご参加ください。	
第4分科会 10:30-12:30	難民を知るワークショップⅡ ～ロヒンギャ難民編～	安達三千代（認定NPO法人IVY事務局長）
	「難民を知るワークショップ」の第2弾として、実際にバングラデシュで、ロヒンギャ難民支援を行なっているIVYの活動を元に作ったワークショップを行います。70万人を超えるイスラム系少数民族であるロヒンギャの人々が、ミャンマーから隣国のバングラデシュへ逃れて1年が経過しました。今や世界最大規模となっている難民キャンプにおいて、何が必要とされているのかを考えていきます。	
第5分科会 13:30-16:00	国際結婚33年、「移住」について考える ～私の人生プラン～	西上紀江子（認定NPO法人IVY） 澤恩嬉（東北文科大学短期大学部准教授） 安孫子義彦・栗野さとみ（山形県国際交流協会）
	1985年、山形県朝日町で、全国に先駆けて行政主導の国際結婚が行われました。以来33年、ステージは第2世代に移りつつあります。国や言語、文化の境を越えて来日し、結婚生活を送ってこられた方々が、ここに住み続ける覚悟をしたのはいつ、どんなことを考えてだったのか。また、迎え入れた町は、どのように取り組んできたのかについて、金山町で暮らす外国出身者と町の担当者にお話を伺い、私たちの今後の人生プランについて考えます。 若者から中高年まで、幅広い世代の方のご参加をお待ちしております。	
第6分科会 13:30-16:00	山形発！私たち高校生が考えること、できること ～これからの世界を語ろう！～	阿部眞理子（認定NPO法人IVY） 三澤香織（JICA山形デスク）
	山形県には国際協力や多文化共生について、取り組んでいる高校が様々あります。この分科会ではポスターセッション形式で3校がそれぞれの取り組みを発表します。後半は高校生同士、参加者同士で交流タイム！高校生の取り組みを知りたい方、意見を交換したい方、ぜひご参加ください。高校生や大学生のご参加お待ちしております。 ◆発表高校とテーマ（予定） ※テーマは変更することもあります。ご了承ください。 山形県立新庄北高等学校「新庄国際化プロジェクト！～新庄で多文化共生を考える～」 山形県立山形東高等学校「山形から世界へ～高校生だからできる国際協力と国際理解～」 九里学園高等学校「外国人も住みやすい米沢をつくる」 「国際教育の必要性」	
第7分科会 13:30-16:00	世界がもし100人の村だったら ～山形から知る世界～	チーム100人村：後藤 優子、酒井 悠里、島貫 晶江、酒井 森平（以上山形大学異文化交流コースOGOB）、渡部 詩織（山形大学4年） 三上 英司（山形大学地域教育文化学部教授）
	「世界がもし100人の村だったら」は世界を100人の村に例え、世界を体感するワークショップです。そのワークショップを参考に、山形県と、近年日本に在住する人が急増しているアジアのとある国を取り上げたワークを行います。山形と世界のつながりを体感してみませんか？ はじめてワークショップに参加する方、高校生の方、ワークショップに興味はあるけど何をするの？という方の参加をお待ちしています。 （このワークショップは開発教育協会「世界がもし100人の村だったら」を参考に制作しました。）	